



# GDSF China 2008 レポート インテリジェント化 と統合化の核心

A&S主催「第3回世界デジタル監視システムフォーラム中国」は7月2日および3日に中国深圳で開催され、26の講演と討論が行われた。今回の主題は「インテリジェント中央監視システム管理プラットフォーム(CMS)の最新の趨勢」と「統合」だった。

編集部



世界デジタル監視システムフォーラム(Global Digital Surveillance Forum:以下、GDSF)では、デジタル監視システムの発展および普及を目的として、セキュリティ業界の多くの人が討論した。今回のGDSF Chinaでは、「インテリジェント中央監視システム管理プラットフォーム(Centre Management System:以下、CMS)の最新の趨勢」、「大規模セキュリティにおける統合」、「インテリジェント分析」、「各業界で

の最新のシステム設計理念とソリューション」などのテーマで討論を展開した。なお、Lenel、Tyco、Sony、Nice、Object Video、MOBOTIX、Panasonic、CSST、H3C、Seagate、ioimage、Onssi、Axis、EverFocus、GeoVisionなどの26社がスポンサーとして参画した。今回は26の講演を用意して、セキュリティ業界のインテリジェント化、デジタル化の趨勢や新製品などを紹介した。

### 高度処理機能化と中央監視システム統合を観る

多くのシステムや製品設計構造は異なっているものの、デジタル化の発展は2008年の段階で、一定の水準に到達している。セキュリティという概念で重要な点は、個人単位から企業や団体などの大きな組織、また世界規模のネットワーク監視システムといった様々な規模のシステムがあるということである。システム統合の趨勢も単一システムの統合から複数システムの

統合までと広がり、多くのプラットフォーム間における融合、互換性への要求があり、統合の目標もアップグレードを求めるものや、管理機能の強化を求めるものなど様々である。

Lenel社北アジアマーケティング総責任者のTony Luce氏は、「セキュリティ管理システムの重要な機能と特性」の講演で、「オープンであることが統合をもたらす」という概念を明確に述べている。オープンな構造を利用することにより、他社のハードウェアと

接続することができ、システム開発者や設置業者と情報を共有することができる。それにより統合が容易になり、オープン化したデータベースなどと管理プラットフォームなどの統合が容易になる。

Nice社セキュリティ&ガード責任者のSandy Gilchrist氏は、「マルチメディアプラットフォームの統合がセキュリティおよび交通管理における強力なツールとなる」の講演で、マルチメディアにおける音声、映像、文字など

の構造が異なる情報を構造化したデータに変換し、マルチメディアシステムでの関連付け、関連情報をまとめてユーザーが求める末端機器に向けて送信するという概念を発表した。この変換を通してマルチメディアのデータは関連性のある有効な情報となり、ユーザーの要求を満たすことになる。

いくつもの講演から簡単に読み取ることができるのは、大規模なセキュリティにおける統合の概念は徐々に管理と応用を求める方向へ変遷しているということである。オープンな構造によりプラットフォームを統合することや、技術力、人的資源、プログラムの統合もしくは前段階のデータ送信構造、関連化および資料化などに関わらず、最終的な目標は多くのシステムを統合することであり、システムの高度な統合、管理水準の効率性の向上を求めている。

### CMSがマルチシステムを統合インテリジェントソフトが管理

多くのシステム、プラットフォームを一つの管理プラットフォームに融合した後は、映像、音声などの資料アルゴリズムの問題に取り組むことになる。これは、どのように管理して効率を上げるかを考える必要があるため、セキュリティ業界におけるもう一つの論点となっている。

CSST社副社長の徐玉波氏は、「セキュリティ管理プラットフォームソフト」の講演で、「管理プラットフォームソフトウェアは業務をインテリジェント化する際に『カギ』となる」と述べて

## 「プロモーション、人材、標準化」、IPシステム発展の鍵

GDSF China前夜、深圳シェラトンホテルで主催者による講演者激励会が開催された。この席上、A&S総編集長のJohn Shih氏と参加者が現在のIPセキュリティ市場について討議した。

「エンドユーザーに対してであろうが設置業者に対してであろうが、我々はデジタルセキュリティシステムを推進する者として、大勢の人に対してデジタルシステムの特長を理解してもらう必要がある。しかし、彼らは往々にして価格のみにこだわり、本来の豊富なインテリジェント機能や、システム本来の価値を見出せないことがある。したがってメーカーはあと一歩踏み出さなければならない」とAxis社華南地区顧客担当マネージャーの楊志文氏は現在の市場の困難さを指摘し、CSST常務副社長の高会武氏は具体的に、「デジタルがアナログよりも数段優れているとのユーザーに対する説得力は不十分である。実際アナログの映像はIPよりも優れている。アナログシステムはマトリックスと接続することができ、これは皆が便利だと思っていることで簡単に受け入れられる。さらに小規模システムではIPシステムの価値は見出せない。またIPシステムの保守も問題であり、問題が発生した際にはどこにどのような問題があるのかがわかりにくい、アナログシステムでは簡単だ。したがって、将来的にIPやインテリジェント化の製品では迅速な発展が望まれており、まず実現

しなければいけないのは顧客たちにアナログシステムよりも映像が鮮明で費用的に安いと理解してもらうことである」と説明している。

言い換えれば、どのように働きかけるかが重要であり、重要な点はユーザーの構造がどのように変化しているかを理解することである。「これまでのセキュリティシステムの採用は防犯部門が購買に取り組んでいたが、現在では多くのネットワーク製品が出ておりネットワーク部門によって購買が進められる必要性も高い。また、入札方式にも変化が見られ、以前はネットワーク部門と防犯部門が一緒に入札に参加していたが、今では別々に参加する必要があるのかもしれない」とパナソニックチャイナ(有)課長の鄭強氏は語る。

Tyco社マーケティング部長の謝泳錦氏は、「デジタル監視システムのプロモーションについては、メーカーはユーザーのIT部門とさらなる交流を取る必要がある、まず企業のIT部門と協力することで明らかな効果が見えるだろう」と意見を述べた。

Lenel社北アジアマーケティング総責任者のTony Luce氏は、「最も適切なパートナーを探し出すことが最も大切である。我々のパートナーによると、彼らの問題は顧客のニーズを把握できていないことで、顧客の製品に対する理解も不足している。そのため、顧客のニーズを把握することは非常に

重要である。ユーザーは既存のシステムについては慣れているが、新しいシステムに慣れるのはそう簡単にはできない」と語っている。

このほかにも、メーカーにとっては人材を集めることも重要である。ioimage社マーケティング部Dvir Doron氏によると、「エンジニア、セールスマンともに人材不足」とのこと、Tyco社の謝泳錦氏も「中国市場は非常に大きいにもかかわらず人材不足が甚だしく、それでも市場を開拓していかなければならない」と話した。

しかし、アナログが市場を席巻している状況を鑑みると、メーカーのほとんどは即座にIPシステムが普及するとは考えておらず、時間をかけることが必要だと感じているようだ。パナソニックチャイナ(有)の鄭強氏は「我々もユーザーの立場から出発し、非常に簡単に操ることのできるシステムを提供し、ソフトウェア会社、プラットフォーム提供企業、器材メーカーなどに関わらず共同で努力する必要がある。これによりユーザーが受け入れることのできる製品を提供できると考えており、これが非常に重要」と語っている。中国専門システム集団総合企画部公共関係および市場宣伝課の樊江波氏は、「IPの受け入れは比較的難しいと言わざるを得ず、主要技術には壁が存在するため、当社ではインタフェース標準のオープン化を望んでいる。例えば、ソニーとAxis社そしてBOSCH社は現在ネットワーク映像インタフェース標準化を共同開発しているが、さらに多くのメーカーと協力し、顧客にとってより便利で迅速に利用できるソリューションを提供したい」と強く語った。

メーカーの考えをまとめると、普及活動、人材、標準化の3つがIPセキュリティシステムを将来的に迅速に発展させる鍵となる。

いる。業務が大規模化し、分散された多くのシステムの統合管理することは、管理プラットフォームソフトウェアが前段階からの情報を受け取り、ユーザーにその使い方を教えることであり、ソフトウェアはデータベースと接続して、ユーザーとの橋渡し役をする核心部分であるといえる。業務をインテリジェント化する趨勢の下で、管理プラットフォームソフトウェアは監視、警報、保存、任務などの高度処理機能化した動作を結び付けて、システムの効率性を可能な限り高めている。

監視システムプラットフォームは各デジタルシステムの融合を担っており、高い管理能力を実現し、重責を担うことで、多くの注目を集めている。プラットフォームソフトウェアは多くのシステムやプラットフォームを融合する「カギ」であり、管理プラット

フォームソフトウェアは早期に多くのシステム、プラットフォームに採用すべきで、フラットな融合の実現を求めている。

### 低費用でIPシステムを 発展させる

将来のIPセキュリティシステムはどうなるのだろうか。さらに便利な管理が可能で、多くの機能を付け、価格は下がる一方で効率はさらに上がるだろう。デジタルセキュリティ技術は既に成熟し、3G技術の登場により帯域幅の制限も解除されつつある。機能についてもかなり高度なものが出ている。そこで、今回のGDSF Chinaでは費用の面からもデジタルセキュリティシステムの優位性を検討した。

Onssi社CEO兼主席技術員のGadi Piran氏は、「どうして人はインテリ

ジェントIP監視システムを使うのか技術、安全、費用」の講演で、配線、電源などの基礎的な施設を構築し運営、保守を行うことによる費用について語り、監視システムとIP監視システムの費用を比較し、デジタル監視システムの費用の方がアナログシステムよりも低いと結論付けている。

パナソニックチャイナ(有)技術課課長の鄭強氏は、「パナソニックデジタルセキュリティ技術のソリューションと事例分析」の講演で、費用面でのIP監視システムの優位性を語った。飛行機を例に挙げ、建設、保守、効率などの費用を細分化し、アナログシステムとデジタルシステムの費用と効率を比較し、アナログシステムとデジタルシステムの費用を提示した上で導入初年はほぼ同等の費用となるものの、導入後5年経てばデジタルシステムのほうがアナログシステムと比較して57%も低くなると説明した。費用を細分化し数年間の費用を合計すると、デジタルシステムの費用は圧倒的に低くなる。これはデジタルシステムの発展を十分に証明できるものである。

### アプリケーションと製品設計

今回のGDSF Chinaで注目を集めたのは、メーカーが製品設計で管理と運用の結合を目指した技術を追求したことである。

MOBOTIX社国際カスタマー部長の楊文斌氏が「インテリジェントカメラと高解析度カメラ映像の保存における経済的ソリューション」の講演で、「分散式インテリジェントカメラシステ

ムにより中央管理システムの負荷を下げることができ、システムの性能を向上させることができる」という見解を発表した。MOBOTIX社では、中央監視システムの資源を多く必要とする機能をカメラに内蔵し、インテリジェントカメラを通しての保存を可能にし、カメラ内の映像分析機能により分析情報を送信することが可能になった。これは異常事態発生時には管理センターと連動するのである。核心となるのはカメラ内で高度な集積と安定性を持たせたとで、演算能力を持ったインテリジェントソフトウェアを用いてカメラを制御することである。カメラ自体が中央管理システムの部分的機能を持ち、中央管理システムのプラットフォームとネットワークでの負荷を下げる。

パナソニックチャイナ(有)パナソニックマーケティングセールス社(中国)PSS営業BUマーケティング課課長関口裕氏は、「デジタルセキュリティの理念とインテリジェント分析機能の運用紹介」の講演で、自動追跡技術を備えたカメラを聴講者に披露した。自動追跡技術をカメラのハードウェア内に取り付けて、DSPを用いたインテリジェント分析技術および機械的処理技術を内包している。連続した映像の前後の差を分析し、カメラに自動的に移動物体を撮影させる。移動物体が撮影範囲から外れた際には別のカメラにその対象物の情報を送り込み、引き続き追跡することができる。

ソニーのエンジニアの謝美健氏は、「デジタル監視、画像優先」の講演で、

「鮮明な画像は監視カメラシステムの発展に不可欠で、真実の映像を捉え、現場をリアルに再現できることが重要である。これが監視システムにおいて最も重要な課題である」と語った。ソニー最新のメガピクセル製品は、セキュリティカメラアプリケーション専用開発したExwavePro CCDを採用している。これはプログレッシブスキャンを採用しており、さらに鮮明な映像を表現することができ、特に移動物体の映像などには残像が出ない。また、ライトファンネル機能により感度が4倍になり、ソニーのメガピクセルカメラの機能はこれまでのアナログカメラの感度を大幅に上回っている。光源の少ないところでもカラーの鮮明な映像を享受することができる。

セキュリティカメラ市場では、きわめて鮮明な映像、高度な統合性、高度なインテリジェント化、高度な運用が求められ、製品設計段階から管理と運用の統合を望み、実用化する設備がセキュリティで実力を備えてさらに発展することが望まれている。

### デジタルセキュリティシステム 発展の礎

A&Sグループの統計によると、GDSF Chinaでは前回よりも26.7%増の1,214人が来場した。GDSF Chinaは、セキュリティ業界に対してデジタルカメラの発展の方向、技術、製品、ソリューションを紹介しているだけでなく、メーカーや設置業者、ユーザーに対しても話ができる機会を設けている。中国唯一のデジタルセキュリティフォー

ラムであるGDSF Chinaは、IPメーカーやユーザーに対して情報発信の機会を提供し、専門的な議題を提供している。講演者および来場者による討論、最新技術、製品展示などはメーカーとユーザーが最も有効的に情報交換できる直接的な場となる。

聴講者からメーカーに対して専門的な質問があり、この質問にはユーザーも多く参加していた。GDSF Chinaの開催により、ユーザーや専門家たちはメーカーや製品に対して深い認識を持つことができた。広西省蒼梧県公安局事務室公安党支部書記の李健初氏は、蒼梧県におけるセキュリティシステムの問題点の解決策を探すためにGDSF Chinaに参加して、優秀な技術を持つメーカーやプロバイダーを探した。同氏によると、以前に他の催物に参加したことがあるが、満足のできる結果が得られなかったとのこと。今回GDSF Chinaに参加したことで、いくつかの企業によるソリューションが蒼梧県の抱える問題を解決してくれそうだとわかったのである。そして、メーカーやプロバイダーとの接触により、これまでに数社が蒼梧県の具体的状況を視察しており、詳細を検討しソリューション案を構築中とのことである。

講演ならびにメーカー、販社、設置施工業者、ユーザーなどと直接デジタル監視システムの市況、実例を聞き製品と接することができたGDSF Chinaは、中国におけるセキュリティシステムを理解するうえで重要な交流の場となり、デジタル化システム推進の場としての役割も果たした。



■今回はセキュリティ業界のインテリジェント化、デジタル化の趨勢や新製品などを紹介した。